



おしゃべりアートツアー
今回は、アーツ前橋が学校連携事業として実施している「おしゃべりアートツアー」を紹介します。
一般的に美術館は「さわらない」「はしらない」「しゃべらない」など、子どもにとって規制が多く、好きになりにくい場所だといわれています。しかし、芸術を鑑賞することは子どもにとって重要な学びの場となるだけでなく、刺激的で楽しい体験です。おしゃべりアートツアーでは、子どもたちに楽しく作品を見て過ごしてもらおうための工夫をしています。

まず、実施するのは休館日である水曜日。展示室を学校団体のためだけに特別に開放し、見学してもらいます。

アーツ前橋探検

vol.11



子どもたちは、貸し切りの展示室で伸び伸びと見学することができます。また、研修を修了した市民ボランティアである「鑑賞サポーター」が鑑賞の助けをします。
おしゃべりアートツアーでは「対話」が重要なキーワード。ただ黙って作品を見たり、美術の知識を一方的に与えたりするのではなく、鑑賞サポーターや友だちと、作品についての感想を言い合うコミュニケーション活動を中心に、鑑賞プログラムが展開されます。作品を見て、感じたことを共有し合うことで、同じ作品なのに自分と友だちでは見え方や感じ方が違うということに気がきます。それにより、鑑賞の楽しさや芸術の面白さを学ぶことができるのです。
本年度は、プレオープン期間中から全5校・300人以上が本プログラムを体験しました。子どもたちが、将来にわたって芸術文化に親しむきっかけとなればと考えています。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1114

日本で数人しかいない醤油ソムリエとして、全国38件の醤油醸造蔵の75銘柄を扱う「職人醤油」を運営している。同店は、各醤油を100ミリの小瓶で販売するとともに、試飲ができる新しいスタイルが特徴だ。
「醤油はそれぞれ地域や蔵の個性があります。ラベルを見るだけでは区別が難しいものです。知らない銘柄を一升瓶で買うのは勇気がいります。だからこそ少量で気軽に試して、自分に合う物確かめてもらいたいです」
全国を旅し、伝統産業の分野で、営業の力が不足していると感じた高橋さん。かつて勤めていた精密光学機器メーカーの営業経験を生かし、ふるさと・前橋で起業。醤油を商材に定め、日々

全国の醤油を楽しんでもらいたい



醤油ソムリエ

高橋 万太郎さん 33歳
西片貝町五丁目

醤油の楽しみ方を伝えている。
「使う醤油によって同じ料理でも、全然違う印象のものができます。普段当たり前に使っている物でも見つめ直してみると、新しい発見があるかも」
こだわりは、自分の目で必ず確かめること。全国の醸造蔵に何度も通って、九州でも車で駆け付けている。「直接行ってみたいと分からないことが多いです。最初は相手にされなかったり、怒鳴られたりしました。でも、思いを伝えていくうちに、お付き合いいただける蔵も増えてきました」
高橋さんの謙虚な人柄と熱い情熱があつてこそ、実現したであろうこのビジネス。これからも伝統産業に吹き込む新しい風として、活躍を続けてほしい。



まちなかに若者を呼び込め

馬場川通りに、学生向けのシェアハウス「シェアフラット馬場川」が完成しました。中心市街地活性化のため、若者をまちなかに集めようとするプロジェクト。築45年の空きビルが、リノベーションにより、新たな可能性を秘めた拠点として生まれ変わりました。



市民協働に関する事業をPR

市民提案型パートナーシップ事業の公開プレゼンテーションを2月1日、前橋プラザ元気21で開催。4団体が高齢者や学校教育、歴史文化などに関する事業をそれぞれPRしました。審査を経て採択された事業は、来年度に提案団体と市が協働で実施していきます。



アジア各国から研修生が訪問

1月31日、文部科学省の国費外国人留学制度であるヤング・リーダーズ・プログラムとして、アジア各国で各分野の指導者としての活躍が期待される研修生13人が本市を訪問。市の施策などの説明に続き、市庁舎や消防本部、前橋プラザ元気21などを見学しました。



本市の文化を考え討論

市民文化会館で2月2日、シンポジウム「前橋の文化のランドデザインを考える…地域学の視点から」が開催されました。パネリストが前橋の文化についての討論を展開。本市ゆかりの初代佐渡が嶽ちゃんこも振る舞われ、参加者は歴史を感じながら舌鼓を打ちました。